

特集

理論家 Roy と 理論分析家 Fawcett の 対話

看護学の未来へ



2017年9月, Sister Callista RoyとDr. Jacqueline Fawcettという, 看護界における世界的な“巨人”が揃って来日しました。かたや, 適応理論で看護理論の歴史に大きな足跡を残す理論家, かたや, 名著『看護理論の分析と評価』をはじめ該博な知識と透徹した分析眼で看護理論の本質を追究する理論分析家。看護研究の歴史と発展は, 両博士の残した功績を抜きに語れないといえます。

一見スタンスの異なるように見える2人ですが, 実は公私にわたり40年以上, 篤い交流を続けてこられた“盟友”でもあります。その2人の講演が, 両博士と親交の深い津波古澄子氏(共立女子大学看護学部教授・RAA-Jロイ適応協会日本支部代表)のコーディネートにより実現しました(RAA-Jロイ適応協会日本支部・杏林大学保健学部共催/後援: 杏林大学保健学部・聖マリア学院大学)。特にDr. Fawcettは, 初めての来日になります。本誌ではこの講演の貴重さを鑑み, 津波古氏にご協力を仰ぐ形で特集を企画しました。

特集は, 講演に先立ち, 津波古氏が米国で行なったインタビューを踏まえ, 来日講演, そして講演を受けて行なわれた座談会で構成しています。座談会では, 津波古氏とともに講演の実現に尽力された中島恵美子氏(杏林大学保健学部教授), そして上記『看護理論の分析と評価』の監訳や『看護理論家の業績と理論評価』の編集など, 第一線でわが国の看護理論の発展を牽引されてきた筒井真優美氏(日本赤十字看護大学名誉教授)に参加いただきました。

看護学の歴史を創り, いまなお新たな看護学を切り拓こうとする両博士の貴重な言葉と問いの数々から, 多くの読者の方々とともに, 看護学の未来を考えていきたいと思えます。

『看護研究』編集室

企画協力: 津波古澄子 共立女子大学看護学部教授・RAA-Jロイ適応協会日本支部代表